

全国大学反戦ストへ!

2015年11月6日
No.337

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

闘う京大生からの 10・27京大バリケードスト総括!

10月27日、京都大学全学自治会同学会中央執行委員会が呼びかける「京都大学反戦バリケードストライキ」が実行されました。

当日朝6時から12時まで吉田南一号館を封鎖したバリケードは、いつも「平穏」に一般教養科目の授業が行われている吉田南構内を騒然とさせました。

8時30分から断続的に行われた共北広場でのストライキ集会には延べ1000人の学生が参加しました。また、テレビニュースでの報道や、TwitterなどのSNSを通じて全国に知られる闘いになりました。

このストライキは、11月1日東京日比谷での労働者集会の前に敢行されたことで、意義が決定付けられました。私たちは韓国やトルコで闘う労働者に胸を晴れるストライキをやろうと準備してきました。そして、闘いの場を夏の国会前から秋は自分の大学に移し、戦争を進める安倍政権に対して、日本の学生のいま持てる最大限の力をぶつけようと議論してきました。このストライキは韓国やトルコの命を削る激突に比べればほんのささやかなものです。しかし、安保法が施行される来年3月以降、戦争政権を打倒するのをめぐる参院選に向かって、これから日本国内で必ず起きる対決構造を先取りするものとなりました。そして、労働者集会に参加した海外の労働者との交流を通して、全く同じ闘いを貫くことが出来たと確信を深めることが出来ました。

このストライキは学生の中にある種の解放感を作り出しています。ストライキの後、「ついにやりましたね」「参加できなかったけど見たかったです」と話しかけてくる学生が増えています。また、「まさか本当にやるとは思いませんでした」と、一度決めた実力闘争の方針を本当に貫徹した中央執行委員会の実行力に



のべ1000人の学生が共北広場に集まりスト集会を打ち抜く!

に対する信頼も高まっています。なにより、新自由主義大学下でもストライキはできるんだという現実感が学生の中に広がっています。「次はいつやるの?」「自分の授業でやって欲しかった」と、ストライキをやろうと思えばいつでもできるんだという地平に学生がたって物事を考え始めています。これによって世界観が完全にひとつ前に進んでいます。さらに、中央執行委員会の1年間に渡るクラス討論の積み重ねによって、ほとんどの1回生が今回のストライキを「反戦」を巡るものと認識し、その内容を支持しています。戦争反対を「一つの政治的立場にすぎない」(北野理事)と言い成す大学に対して、学生の「反戦」を示すストライキの力強さが際立っています。

大学当局は当日、必死になって学生を煽り「バリケードが学生によって内側から解除された」という構図を描こうとしました。しかし、スト終了を宣言した昼集会の最中に、守る人のいなくなったバリケードを解除することなどなんらの主体も問われず、難しいものではありません。かえって、6時間のバリケード封鎖が当局に一指も触れられず守り抜かれた事実だけが揺るがしがたいものとして明らかになっています。そして封鎖が「解除」された後、3限の時間になっても中央

執行委員会の訴えに答えて広場に残り、討論に応じた多くの学生。彼らこそ今回のストライキの本当の主役です。

ストライキは京大山極総長体制の本質を暴き出しました。当局は翌日ホームページ上に直ちに「封鎖行為は威力業務妨害罪に当たると考えられ、本学としては刑事告訴も含め厳正な対処を検討」という声明を発表しました。当日対応に来た国際高等教育院長・村中はストライキに対して「犯罪行為」「違法な業務妨害」と連呼しました。そして、自身が労働法が専門の法学教授であるにも関わらず「ストライキなんか誰がやっても違法だ！」と断言しました。山極総長の責任は重大です。20日に中央執行委員会がストライキ宣言を通告してからストライキまでの7日間、やったことは弾圧のための準備だけです。副学長を通じて学務部職員にビデオでの撮影を指示し、この間の経緯を何も知らない教育院長を対応に差し向け、京都府警に通報させ、機動隊バスを4台も警察署に待機させていたのです。学生の反戦闘争への弾圧を容認してきた山極体制の本性見たりです。

最も許しがたいのは、「告訴」の声明の中で「学生の教育を受ける権利」などに言及していることです。学生の権利！それが安倍政権の戦争と大学改革の下でいかに侵害されているのか！まさに同学会中執が徹底的にクラス討論で議論し、選挙で問い、情報連絡会の場で暴き、山極総長に幾度となく申し入れてきた内容そのものです。さんざん権利侵害を黙認し加担し討論から逃げ回ってきた側の者が、今は実力闘争に対する弾圧のために他人の権利を振りかざす。言語道断です。山極総長は今回のストライキが学内的に大問題化し自らのこれまでのあり方が暴かれるのを恐れているのでしょう。だから、ただひたすら客観的立場からの「業務妨害」での告訴という、外部権力に委託する形での弾圧を狙っているのです。こんな最悪かつ脆弱な弾圧は絶対に粉碎します。学生の団結によってそれは可能です。そして、私たちは全学ストライキの次なる実現に向けて進んでいくだけです。

今ほど、大学ゼネストが求められている時代はありません。原発御用学者を生み出した大学の腐敗は、戦争問題をめぐってよりはっきりしてきています。京大教授が沖縄米軍新基地に与する環境監査の見返りに業者から800万円の資金を得ていたことなどは氷山の一角に過ぎません。また、財務省は大学の学費の2倍化をも視野に入れた大学の交付金削減をうち出しています。さらなる怒りの爆発は不可避です。

同学会中央執行委員会と闘う京大生は、今回のストライキを出発点に団結をさらに拡大し新たなリーダーを生み出し前に進みます。そして、更に力強いストライキの成功を勝ち取り、キャンパスを反戦のとりでとして取り戻すまで闘い続けます。



「ストは違法」と絶叫する村中教授を同学会が追及・撃退

【当面する行動方針】

● “つぶせ！「現代の赤紙」裁判員制度” 11・6最高裁デモ

11月6日(金) 正午～ 日比谷公園霞門集合 主催：裁判員制度はいらない！大運動

● “今こそ星野文昭さんを取り戻そう” 11・29全国集会

11月29日(日) 13時～ 星陵会館にて(集会後、デモ)
主催：星野文昭さんを取り戻そう！全国再審連絡会議

● 武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審一判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

● 武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて